

「さんべ冬ステージ」

1 趣 旨

- ・主体的に社会参画を目指す青年に対し、将来のリーダーとして不可欠な、リーダーシップを身につけるための場として、体験を通じた学びを提供する。
- ・リーダーシップをキーワードに、企画・運営の様々な場面で問題解決・合意形成を繰り返し、対人関係力や指示・傾聴力等リーダーとして必要な資質の向上を図る。

2 事業の概要

本事業では、ボランティア活動や企画等に興味・関心のある青年（以下ボランティア参加者という。）を参加対象に設定し、「⑥本番編」にて、子供（小学校4～6年生）20名程度を対象とした宿泊イベント（「BE THE STAR」）を開催するために、ボランティア参加者自身で企画・広報を行い、イベント当日は、実際に運営を行っていくものである。

(1) 期 日	①企画編 1	令和元年 11月 2日 (土) ～ 11月 4日 (日) 【2泊3日】
	②企画編 2	令和元年 11月 9日 (土) ～ 11月 10日 (日) 【1泊2日】
	③試行編	令和元年 11月 30日 (土) ～ 12月 1日 (日) 【1泊2日】
	④準備編 1	令和元年 12月 14日 (土) ～ 12月 15日 (日) 【1泊2日】
	⑤準備編 2	令和2年 1月 11日 (土) ～ 1月 13日 (月) 【2泊3日】
	⑥本番編	令和2年 1月 17日 (金) ～ 1月 19日 (日) 【2泊3日】
	⑦ふりかえり編	令和2年 2月 1日 (土) 【1日】

(2) ボランティア参加者

①企画編 1	17名 (大学生17名)	※募集20名
②企画編 2	20名 (大学生20名)	※募集20名
③試行編	15名 (大学生15名)	※募集20名
④準備編 1	18名 (大学生18名)	※募集20名
⑤準備編 2	13名 (大学生13名)	※募集20名
⑥本番編	23名 (大学生23名)	※募集20名
⑦ふりかえり編	22名 (大学生22名)	※募集20名

(3) 「BETHSTAR」参加者 22名 (小学校4～6年生) ※募集20名程度

(4) 講師 リードクライム株式会社 代表取締役 西 直人 氏 (①企画編 1 のみ)

(5) 主な研修内容

【①企画編 1】

1日目	○アイスブレイク ○講義・演習
2日目	○講義・演習 (事業目的・目標・メインターゲットの設定、ファシリテーションについて)
3日目	○講義・演習 (リーダーシップについて、ブレインストーミング)

【②企画編 2～③試行編】

1日目	○アイスブレイク ○テーマ確認・目標設定 ○企画についての検討・試行・準備
2日目	○企画の見直し・試行 ○ふりかえり

【④準備編 1】

1日目	○アイスブレイク ○テーマ確認・目標設定 ○企画についての試行・準備 ○安全管理研修
2日目	○企画の見直し・試行 ○ふりかえり

【⑤準備編 2】

1日目	○アイスブレイク ○テーマ確認・目標設定 ○企画の準備
2日目	○トライアル (当日を想定し、実際に行ってみる)
3日目	○企画の見直し ○ふりかえり

【⑥本番編】

1日目	○アイスブレイク ○テーマ確認・目標設定 ○企画の準備
2日目	○企画の準備 ○企画の運営「BE THE STAR 1日目」
3日目	○企画の準備 ○企画の運営「BE THE STAR 2日目」 ○ふりかえり

(6) パターン①「BE THE STAR」の日程（当初予定）※雪がなかったため以下パターン②を実施

一 日 目	10:30	11:00	12:00	13:30～		17:10	18:45	19:30	20:30	22:30
	入所・受付	アイスブレイク 始まりの会	昼食・休憩	企画① 歩くスキー	企画② 雪とうろう を作ろう	夕飯のつどい 夕食・休憩	企画③ 雪とうろう に火をともしよう	レクリエーション	自由時間 入浴	就寝

二 日 目	6:30	7:00	7:40	9:00～		12:00	13:00	14:00
	起床	朝のつどい	朝食	企画④ ウォークラリー	企画⑤ 写真立て作り	昼食・休憩	帰りの会	解散

パターン②「BE THE STAR」の日程（実際）

一 日 目	10:30	11:00	12:00	13:30～		17:10	18:45	19:30	20:30	22:30
	入所・受付	アイスブレイク 始まりの会	昼食・休憩	企画① 「Winter Sports Festival」		夕飯のつどい 夕食・休憩	企画② 「さんべからの 依頼～ペットボ トルで何ができ る?～」	レクリエーション	自由時間 入浴	就寝

二 日 目	6:30	7:00	7:40	9:00～		12:00	13:00	14:00
	起床	朝のつどい	朝食	企画③ 「宝を探せ～walk to talk」	企画④ 「写真立て作り ～思い出を形に ～」	昼食・休憩	帰りの会	解散

3 事業の特色

① プログラムデザインと企画のポイント

本事業は全7回の構成である。過去3年間、ボランティア参加者は親子を対象とした宿泊イベントの企画立案及び運営を行ってきたが、昨年度の反省を考慮し（昨年度の反省：前年度は参加者0名であり、様々な方への聞き取り等から親子向けより子供対象の宿泊イベントの方が、時期的に保護者は参加させやすいということがわかった。）、子供向けの宿泊イベントへ変更した。

ボランティア参加者には、自身の現状を理解するとともに、長所・短所を客観的に理解し、今後の課題発見の参考とするために、「さんべ冬ステージ」事業前・事業後（計2回）に社会人基礎力アンケートを行った。（様式は交流の家が作成）体験とふりかえりを通して、「さんべ冬ステージ」趣旨の達成を目指すようにした。

以下プログラムデザイン及び企画のポイントである。

※社会人基礎力とは

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。（経済産業省HPより抜粋）

☆【全回共通事項】

○達成目標の設定及び提示

- ・ボランティア参加者について、今年度は大学1年生～2年生が多いため、「見通しを持って活動を行うこと」、「タイムマネジメントの意識を持つこと」、「自身で目標を設定することの意識づけ」を目指した。

○事業開始時の目標設定及び事業終了前のふりかえりの実施。(様式:「成長の足跡」の記入)

- ・個人の目標設定を行うことで、「何のために活動に参加しているのか」をより具体的に考えながら、活動できることを目指した。また、ふりかえり際には、具体的に「次からどうしていくのか」ということを考え、文章化することで、より個人の成長を促進できることを目指した。
- ・各回の目標設定及びふりかえり内容を、1枚にまとめたことで、段階に応じた個人の目標や、それに対してのふりかえりを確認することができ、毎回の目標設定の参考及び全7回を通じての個人の成長を可視化することを目指した。

○ミッションカードの記入

- ・「毎回各個人が1名のいいところを5つ見つけ、カードに記入したものをプレゼントする」ということを実施。自分では気づいていない良さに気づき、個人の成長につなげること、人の良いところを見つけるために、人をよく見る力をつけることを目指した。

○「食事はメンバー全員で行くこと」のルール化

- ・食事を通して、個々の仲を深めること、チームとしての意識を育てることと同時に、メリハリのある生活を目指した。

○「常に他の利用者に見られているという意識を持って生活すること」のルール化

- ・「⑥本番編」では、ボランティア参加者は運営者の立場となる。保護者から子供たちを預かる身として、運営者としての意識を育てることを目指した。

○アイスブレイクの導入

- ・毎回同じメンバーが参加できるわけではないので、久しぶりのボランティア参加者と継続参加者間の緊張をほぐすことを目指した。ただし、③試行編からは、ボランティア参加者自身がファシリテーションを行うようにし、イベント本番を意識させることを目指した。

☆【①企画編1】

○外部講師を招聘し、企画立案の方法、広報の方法、運営を行う上で大切なこと、リーダーシップについて、ファシリテーションの技術について、講義・演習を通して学ぶ機会の提供

- ・基本的な上記スキルの習得はもちろん、演習を通して「⑥本番編」で実施するイベントの目的（何のために）、メインターゲット（ペルソナの設定）（特に誰にきてもらいたいのか）、ゴールイメージ（参加者にどのような姿で帰ってほしいか）の見通しが持てていることを目指した。

☆【②企画編2】

○企画編①での学びの実践の提供

- ・企画編①で習得した学びを基に、メインターゲット、ゴールイメージを共有・再考し、企画により深みを持たせることを目指した。

○チラシ作成の秘訣の提供

- ・プロのデザイナーが実践している、チラシ作成の秘訣を提供することで、より魅力的な参加者募集チラシができることを目指した。

☆【③試行編】

○プレゼンテーションの実施

- ・各班の企画内容を共有することはもちろん、企画の内容について、第三者の目（交流の家の職員も含む）を通して、さらに深めて行くことを目指した。

- ・人前での発表練習，伝え方（表情，声の大きさ，声のトーン，話の構成等）のトレーニングとして実施することで，社会が求めているコミュニケーション能力の向上を目指した。（参考：朝日新聞 DIGITAL 2018 年 5 月 24 日 聞き手・中島鉄郎「企業が採用で最重視するコミュ能力 若者の理解とはズレ」<<https://www.asahi.com/articles/ASL5L3CPYL5LUPQJ001.html>>）

☆【④準備編 1】

○安全管理研修の実施

- ・各プログラムや子供たちへの生活指導時等のリスクの洗い出し及びその対応について，意識的に考える習慣を持つことができること目指した。また，安全管理への個々の意識の向上を目指した。

☆【⑤準備編 2】

○トライアル（実際にプログラムを行ってみること）の実施

- ・実際にプログラムを行うことで，企画内容を深めること目指した。また，実際に現場で行ってみることで，様々な課題が出るため，実際に事前にプログラムを行うことの重要性を学ぶこと目指した。

○危機管理マニュアル，運営マニュアルの作成

- ・運営組織図や危機管理体制の確立，各スタッフの動向表，プログラムごとの企画内容やリスクマネジメント，また子供たちの班につくグループリーダーに対して，各プログラムのねらい達成のために意識して欲しいこと等をまとめたマニュアル（冊子）を作成し，事業を安全に行うこと，ねらいを達成すること，そしてチーム一丸となって運営すること目指した。

☆【⑥本番編】

○運営体験の提供

- ・ボランティア参加者の自主企画事業の参加者の受入から送り出しまでを責任を持ってボランティア参加者が体験することで，多くの学びや気づきを得ること目指した。

☆【⑦ふりかえり編】

○ふりかえりの徹底

- ・テーマを「さんべ冬ステージを通じて学んだこと・気づいたこと」とし，3つのキーワード（「企画」「運営」「対人関係」）について，グループで協議し活動をふりかえることで，今までの学びや気づきを個々だけでなく，他のボランティア参加者の学びも共有することができ，さらに学びを深めること目指した。
- ・社会人基礎力チェックシートを事前事後と行ったグラフ化したデータを各自が確認することで，自己の成長を客観的に見て分析できること目指した。

○アクションプランの作成

- ・自身のふりかえりを通して明らかになった課題に対して，今後どのようなことを意識し，何を行っていくかを明文化することで，行動を起こしやすくし，ボランティア参加者の今後の更なる成長を目指す。

② 運営のポイント

- 担当職員は基本的には「見守る」というスタンスで運営するが，安全を確保する場合，ボランティア参加者にアドバイス等を求められた場合，その他担当職員が必要だと感じた場合には介入するようにした。

4 社会人基礎力アンケート及びふりかえりアンケート

①アンケートの趣旨

自身の現状を理解するとともに、長所・短所を客観的に理解し、今後の課題発見の参考とする。

②調査対象事業の概要

【対象期間】令和元年11月2日～令和2年1月19日

【主な活動】企画立案等に係る話し合い、プレゼンテーション、イベント運営 等

【対象者】

(人)

性別	大学生				計
	1年生	2年生	3年生	4年生	
男性	5	9	4	1	19
女性	2	2	0	1	5
計	7	11	4	2	24

③アンケート項目

能力	能力要素	アンケート項目
前に踏み出す力		
	主体性	1. 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 13. 自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる。 25. 自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。
	働きかけ力	2. 相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容など)を伝えることができる 14. 状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる。 26. 周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている。
	実行力	3. 小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。 15. 失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。 27. 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。
考え抜く力		
	課題発見力	4. 成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。 16. 現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。 28. 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。
	計画力	5. 作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。 17. 常に計画と進捗状況の違いに留意することができる。 29. 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。
	創造力	6. 複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる。 18. 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。 30. 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。
チームで働く力		
	発信力	7. 事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる。 19. 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる。 31. 話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。
	傾聴力	8. 内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。 20. 相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる。 32. 相手の話を素直に聞くことができる。
	柔軟性	9. 自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。 21. 相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる 33. 立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる。
	状況把握力	10. 周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる。 22. 自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。 34. 周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうように行動することができる。
	規律性	11. 相手に迷惑をかけないように、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。 23. 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる。 35. 規律や礼儀が特に求められる場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる。
	ストレスコントロール	12. ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。 24. 他人に相談したり、別のことに取組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる。 36. ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。

④社会人基礎力アンケート事前及び事後の結果（全体平均）

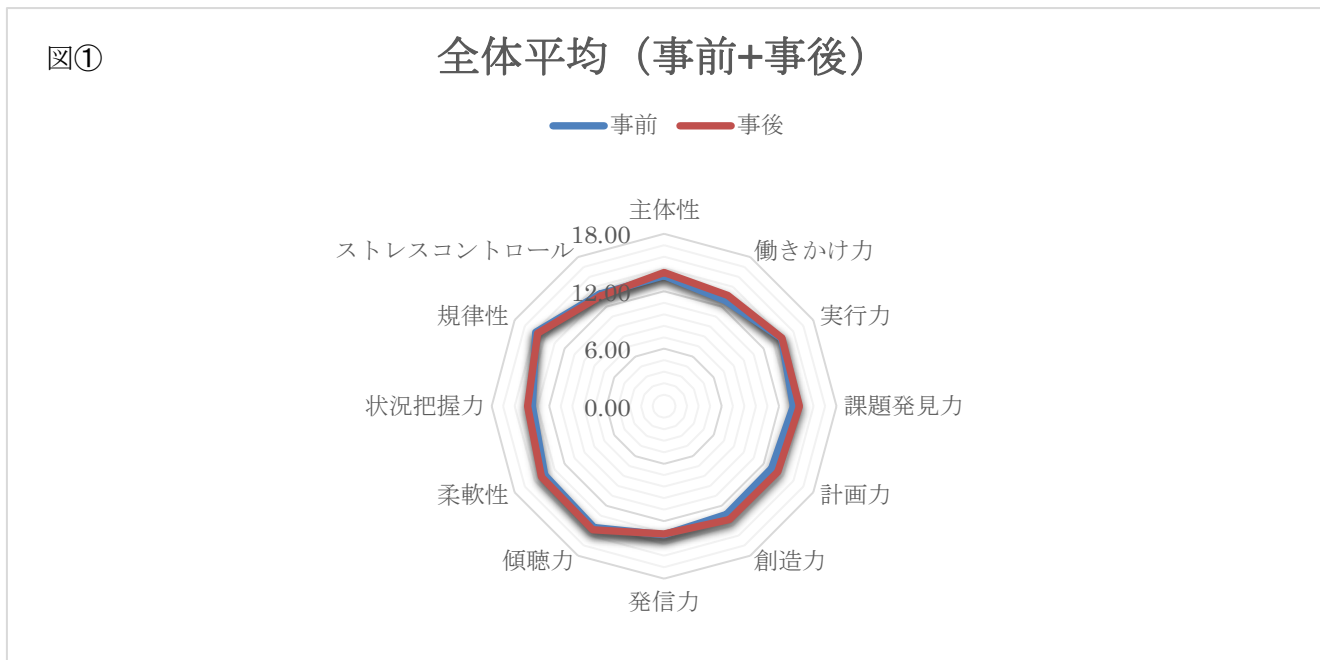


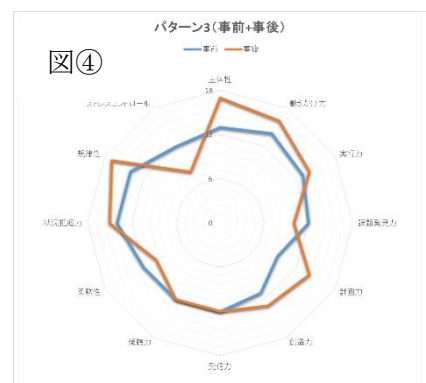
表 1：社会人基礎力アンケート事前及び事後調査結果（全体平均値）（上記図①）

	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール
事前	13.63	12.75	14.17	13.50	12.96	13.04	13.42	14.63	14.38	13.75	15.46	13.50
事後	13.96	13.33	14.21	14.13	13.71	13.67	13.33	14.88	14.79	14.25	15.25	13.29

※各能力要素 最大値：18ポイント，最小値：3ポイント

②社会人基礎力アンケート事前及び事後の結果（個人グラフ）

- ・個人のアンケート結果について、以下3パターンの形（能力要素の高低は人による）を主にみる事ができた。



③社会人基礎力アンケート結果

- ・全体平均（図①）から、事前と事後とを比較し、「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」のポイントが向上し、「規律性」「ストレスコントロール」のポイントが低下した。
- ・図②から、事前アンケートより事後アンケートの方が、全体的にポイントが向上した。
- ・図③から、事前アンケートより事後アンケートの方が、全体的にポイントが低下した。
- ・図④から、大きくポイントが向上した能力要素がある反面、大きくポイントが低下した能力要素もある。

④社会人基礎力アンケート結果の考察

個人ごとで長所・短所、得意・不得意が違うこともあり、本活動が与える個人への影響は人によって違いがあると捉えている。図①をみると、突出した能力要素の向上及び低下がみられないことから、平均値をみると、本活動がボランティア参加者共通としての、特定の能力及び能力要素の変容には寄与していないと推

測できる。一方、個人の結果は、図②～④の3パターンに分類することができる。それぞれのパターンの記述を含めて図②～図④を以下のように考察する。

○図②からみる考察

- ・事前に比べて事後のポイントが向上していることから、自分自身のことを過小評価していた能力要素があると推測できる。
- ・事前に比べて事後のポイントが向上していることから、体験を通して、成長を感じたと推測できる。

○図③からみる考察

- ・事前に比べて事後のポイントが低下していることから、事業前は、自身を過大評価していたが、体験を通して現状把握を行うことができたことと推測できる。

○図④からみる考察

- ・事前に比べて事後のポイントが低下していることから、今まで意識していなかったことに焦点があたり、課題と感じたと推測できる。
- ・事前に比べて事後のポイントが向上していることから、課題を克服、また成長を感じたと推測できる。

⑤ボランティア参加者の自己分析による気づき・学びについて

- ・今まで先輩や目上の人たちがいるとあまり意見などをいうことができなかったが、さんべ冬ステージを通じて、話し合い等を多く行ったことで、しっかり意見を言えるようになった。
- ・アイデア出し等を通じて、発想力を鍛えることができたため、大学の授業でブレインストーミングをする機会があったときには、圧倒的に周りの人より多くの考えを出すことができたことから、発想力が身についたと実感することができた。
- ・社会人基礎力アンケートでは、大半の項目（特に計画力、発信力、状況把握力）が下がってしまった。しかし、これは自分の中で決して悪いことではなく、むしろ成長だと感じている。なぜなら、先輩方の行動をリアルタイムで見続けたことにより、自分の中で評価基準、考えの基準や見方が変わったように思えたからである。
- ・さんべ冬ステージを通じて1番大きかった成長は、自分がつらいときに踏ん張って、最後までやり抜いたこと。そして、最後までやり抜けば素晴らしいものが得られることを知った。
- ・任せられた仕事のみを行うのではなく、自ら仕事を見つけ、行うということをさんべ冬ステージの全回を通じて意識して取り組んだ結果、今自分が何を求められていて、その求められていることを理解し、遂行する力が成長したと思う。
- ・企画立案を行う際、使った企画の中にも色々な問題や課題があり、満足のいくものを作ろうとすると時間がいくらあっても足りなかった。対象者の楽しみや気持ちの変化にも着目し、考えながら企画を作ったことで、問題や課題を見つける力を養うことができた。
- ・子供と関わる中で、介入しすぎるのではなく、引いて見守ることの大切さを知った。
- ・ミッションカードに多くの人から書いてもらって気づくことができたのだが、今回自分が成長したと思うのは、「思考力」「発言の仕方」だと思う。色々な方からアドバイスをいただいて、自分には今までなかった引き出しを増やすことができ、様々な視点で物事を考えることができるようになった。
- ・他人に弱っている姿を少しでも見せることができたのも成長だと思う。苦しいこと、嫌なことをすべてため込むのではなく、出すことの勇気が持てた。

⑥ボランティア参加者の自己分析による今後の（課題）及び【課題を解決するために何をするか】について

- ・（前に出る力）：【企画のリーダーや全体のリーダーを体験すること。】
- ・（判断力、見極め）：【バイトや学校の課題、他のボランティア活動等の多くの仕事、課題を課される環境に身を置くことで、何を最初にすべきか、この仕事・課題はどれくらいの労力を要するのかを概算して、限られた時間の中での優先順位を決める訓練をする。】
- ・（働きかけ力）：【相手との関係性を築いた上で、自分の想い、考えを人に伝えるために、普段から対人関係を築いていくこと。また自分の考えをまとめる意識を持つこと。】
- ・（ストレスコントロール）：【ストレスがため込まないために、休憩をこまめにとること。】
- ・（自分の考えを他者に分かりやすく伝える）：【話の構成について、まずは紙に書き出す。できるようになったら頭の中で考える。話し方がうまい人のまねをしてみる。また聞いてみる。】
- ・（計画力）：【大学の授業で出る提出物をいつもぎりぎりですしたり、最後まで追い詰められないと行動に移したりしないので、「いつまでに」「何をやるのか」を明らかにして行動に移す。】
- ・（本番力、現場力）：【来年もさんべ冬ステージに参加をする。インターンシップや実際の学校現場での経験を積むこと。】

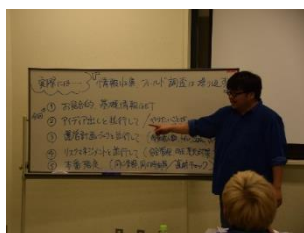
5 成果と課題

《成 果》

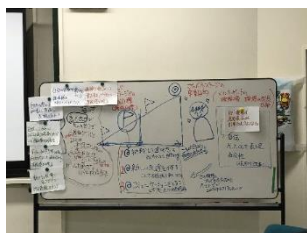
- 「①企画編1」において、外部講師を招聘し、企画立案の方法、広報の方法、運営を行う上で大切なこと、リーダーシップ、ファシリテーションの技術について、講義・演習を通して学ぶ機会を提供したこと。それによって、「確実に参加前より知識量や考え方の引き出しは増えたように思う」等のボランティア参加者の声があった。また、実施回を重ねるごとに学んだことを活かしながら話し合いやプレゼンテーション等を行っている様子がみられた。さらに子供向けイベントへの応募者数、子供向けイベント終了後に事故等なく無事やり遂げることができたことから、様々なスキルを養うことができたと考えられる。
- ボランティア参加者の自主企画事業について、昨年度の反省から、子供対象の宿泊イベントにしたこと、広告用のチラシ作成に意識を向けたこと、募集期間を昨年度より約2週間長く設定したことにより、参加者募集定員20名のところ、25名の応募があった。
- 社会人基礎力及びふりかえりアンケート結果から、新たな気づきや学びを言語化、視覚化すること、また他のボランティア参加者の学び等の共有、ミッションカードを通じて、他人は気づいているが自らでは気づいていない自分に気づく（ジョハリの窓：盲点の窓）などの気づきがあった。ふりかえりを徹底して行ったことで、ボランティア参加者個人が成長を実感することができた。また、個人の現状把握を通して、個人の課題点、課題を明確にしたことで、今後活かすことを具体的にすることができたと考えられる。
- 「⑤準備編2」には、島根県内の公立青少年施設の職員2名が事業の視察、また島根県内青少年教育施設研修会での本事業の発表を通じて、当交流の家のボランティア育成ビジョン、本事業のプログラムデザインや企画のポイント等を伝えることができた。

《課 題》

- 年々雪が少なくなってきており、3年連続で子供向けイベント当日に活動に必要な雪が積もっていないということが起きている。また1月には成人式があり、ボランティア参加者の参加人数が少ない実施回もあることから、子供向けイベントの時期を再検討する必要がある。



「①企画編1」講師による
講習の様子



「①企画編1」目的・目
標・メインターゲット



「①企画編1」ブレイン
ストーミングの様子



「②企画編2」
話し合いの様子



「④準備編1」安全管理研
修の様子



「⑤準備編2」全体へ発表
(県立施設職員視察中)



「BE THE STAR」アイス
ブレイクの様子



「BE THE STAR」Winter
Sports Festival」様子



「BE THE STAR」宝を探
せ～walk to talk の様子



「BE THE STAR」
集合写真



「⑦ふりかえり編」
意見出しの様子



「⑦ふりかえり編」
全体共有の様子